

Building a Vibrant Community That Will Last for

1000 Years

多様な“人”と“コミュニティ”がつながり新しい価値を生み出す—
そんなサステイナブルなまちづくりを進めるため、わたしたち大丸有は
「大丸有サステイナブルビジョン」にもとづき、ステークホルダーの
皆さんと連携しながらさまざまなアクションを展開しています。



About the OMY area

The OMY area refers to the Otemachi, Marunouchi, and Yurakucho districts of Tokyo's Chiyoda Ward. As a business and cultural center, the area plays a vital role in Japan's overall development. The community enjoys strong geographic, cultural, and economic ties, and the three districts have come together to advance urban development as a single community. As part of this process, community actors have worked seamlessly with local land and property owners, as well as local companies, shops, workers, government offices, developers and visitors to promote better community development.

Defining CSR as “Community Social Responsibility”

Although CSR is a term used generally to refer to corporate social responsibility, for the purposes of this report, CSR refers to “community social responsibility.” This report provides an overview of activities conducted by groups involved in community development in the OMY area as they relate to this community-based definition of CSR.

Publication Date October 2014 (報告期間：2013年4月～2014年3月)

Publishing Organization

OMY Community Social Responsibility Report Publication Committee
[Members]
General Incorporated Association: Council for Area Development and Management of Otemachi, Marunouchi, and Yurakucho (OMY Council)
Otemachi Building 6F, Otemachi 1-6-1,
Chiyoda-ku, Tokyo 100-8133, Japan
<http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp/> (Japanese only)

NPO OMY Area Management Association (Ligare)

635 Otemachi Building, Otemachi 1-6-1,
Chiyoda-ku, Tokyo 100-8133, Japan
<http://www.ligare.jp> (Japanese only)

Ecozzeria Association (General Incorporated Association: The Association for Creating Sustainability in Urban Development of the OMY District)
Shin-Marunouchi Building 10F, Marunouchi 1-5-1,
Chiyoda-ku, Tokyo 100-0005, Japan
<http://ecozzeria.jp/english/>

[協賛]

Mitsubishi Estate Co., Ltd.
Otemachi Building, Otemachi 1-6-1,
Chiyoda-ku, Tokyo 100-8133, Japan
http://www.mec.co.jp/index_e.html



用紙協力 三菱製紙株式会社
ダイヤイラスト FSC® 認定-MX

Towards Sustainable Community

OMY Community Social Responsibility Report 2014

A Community for

1000 Years

OMY
Community Social
Responsibility
Report 2014



TOP MESSAGE

大丸有エリアにおいて持続可能なまちづくりを推進する
3つの組織の代表者からのメッセージです。

人びとがいきいきと活動できる 「大丸有サステイナブルコミュニティ」へ



Shigeru Ito

Board Chairperson, The Association for Creating Sustainability in Urban Development of the OMY District (Ecozzzeria Association)

Shigenori Kobayashi

Board Chairperson, OMY Area Management Association (Ligare)

Naoto Aiba

Board Chairperson, Council for Area Development and Management of Otemachi, Marunouchi, and Yurakucho (OMY Council)

大丸有エリアでは、大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、NPO 大丸有エリアマネジメント協会（リガーレ）、大丸有環境共生型まちづくり推進協会（エコツツェリア協会）が中心となって、まちづくりを推進しています。

2013年、私たちは社会や経済など、より多様な課題に対してイノベーションを生み出し続け、サステイナビリティを高め進化していくことを目指し、新たに「大丸有サステイナブルビジョン」を策定しました。ビジョンでは安全、環境、健康といった当エリア内の課題解決に加えて、「創造」性の支援を柱の一つに掲げ、より一層「人びとがいきいきと活動できる」場づくりに重点をおいています。

私たちはこのビジョンを実現するため、公的空間や交通網の発展的な活用、災害時にも助け合える“顔が見える”活動づくり、生物相の保全に配慮しながら人が気持ちよく憩い集える緑地、人が健やかに働

き暮らすことができる仕組みづくりなどのアクションに、着実に取り組んでいきます。

一方、当エリアで培われた共有価値を生み出す基本理念とビジョン、ビジネスモデルやノウハウを、復興支援や地域振興などの社会課題の解決に結びつける人材や企業が国内外のさまざまなフィールドで活躍を始めています。こうしたコミュニティネットワークを社会資本として、大丸有エリア由来の活動を広げ、外部への発信を通じて、多様な人びとが集う新たな都市観光の姿を見出すと同時に、日本を総覧できる学びと事業創発の場として、ヒト・モノ・コトの好循環を生み出すことを目指します。そして、エリアマネジメント活動の向上と、新たな競争力を生み出すビジネスセンターとしての基本機能の継続的な強化に取り組み、サステイナブルコミュニティづくりを推進していきます。

INSIGHT

Looking ahead to 2050

サステイナブルビジョンは、人とコミュニティの活動を重視しています。人がいきいきと活動していくためのヒントをお二方からうかがいました。

社員の健康づくりは 企業と社会の持続的発展への投資



Yuji Hurui

東京大学特任助教、医学博士、ヘルスケア・コミッティー代表取締役会長。産学連携のもと、予防サービスの提供に取り組む厚生労働省、経済産業省、地方自治体、医療保険者団体などの委員を務める。著書に「わかとかわるー特定健診・保健指導」（カザン出版）など。

2014年の政府の成長戦略「日本再興戦略」改訂版に「健康経営」が盛り込まれました。健康経営とは企業の持続的成長を図る観点から従業員の健康に配慮する経営手法のこと。いまや健康経営は社会への投資であり、日本経済の再生に欠かせない一要素と言えます。しかし、現状は健康経営の本質を理解している企業はまだ多くはありません。健康経営を広めていくためには取り組みの効果を可視化することと、健康経営に取り組む企業を評価し、経営者が取り組みやすいような仕組みを社会で用意することが大切です。

1社だけでなくエリア全体で取り組む

ことで、企業ごとに金利・保険料・税制などの優遇措置の付与だけでなく、建物の容積率の緩和やまちの活性化などエリア全体が評価されることが期待できます。職場環境を共有する大丸有のようなエリアでこのような取り組みが始まると、そこで働く人だけでなく企業が参画することでさまざまな工夫や仕掛けを導入することが可能になります。健康経営ランキングや健康カフェなど取り組みを象徴するようなブランドをぜひ大丸有から全国に発信していただきたいですね。

「おもてなし経営」が日本を元気にする

昨今、国内市場の競争激化、グローバル化への対応などにより、企業の多くは激しい価格競争に晒されています。一方で、顧客・地域から愛され、安定的、継続的に経営を行っている優良企業もあります。そうした企業に共通する特徴は①社員の意欲と能力を最大限に引き出し、②地域・社会との関わりを大切にしながら、③顧客に対して高付加価値・差別化サービスを提供していることです。これは商い上手と言われた近江商人が大切にしていた「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の3要素、すなわち「三方よし」の理念に通底するものです。高度経済成長期以降の経

済活動の中で忘れられていた日本独自の経営の心に、これからの時代を生き抜くヒントがあったと言えます。そこで経済産業省では、この3要素を備えた経営を「おもてなし経営」と名付け、2012年度から「おもてなし経営企業選」として表彰しています。そうした企業風土がいかにして培われたのかを紹介し、多くの企業の経営のヒントにしてもらえればと考えているのです。今後、おもてなし経営を実践する企業が増えていけば、日本の未来は明るいでしょう。大丸有の大手企業の方々には、おもてなし経営という非財務価値の重要性に、ぜひ気づいてほしいですね。



Atsuko Yoshida

2013年2月から経済産業省サービス政策課課長補佐（取材当時。現在は経済解析室参事官補佐）。東京大学大学院都市工学専攻修了後、経済産業省に入省。以来、文化庁国際課、経済産業省の通商機構部や伝統的工芸品産業室などに所属。石川県出身。

ACTION

絆を強化する多様なコミュニティをつくる

- ◆ **エコ結び** 大丸有エリアの約 600 店舗の加盟店で、Suica、PASMO を使って買い物、飲食するだけで、誰もが環境貢献できる「エコ結び」。代金の 1% が「エコ結び基金」に積み立てられ、さまざまな環境活動に役立っています。

2013 年度実績
積立基金 約 1,180 万円
加盟店舗 約 600 店
決済件数 1,348,810 件
<http://ecomusubi.com>

◆ **エコ結び基金の使いみち**

大丸有エリアで大量に消費される「紙」。その源である木を育てる森を守るために、エコ結びは木や森、自然の大切さを知る機会づくりを支援しています。

◆ **参加方法**

レジの近くにこのステッカーのあるお店で Suica、PASMO を使ってください。

◆ **もりもりキッズ in ひのはらむら**

夏に実施される環境教育プログラム「エコキッズ探検隊」に基金を拠出。2013 年は東京から 2 時間半の檜原村で、ツリークライミングなどを通して森や生き物などを学ぶプログラムに役立てられました。

◆ **ピンクリボンスマイルウオーク東京大会**

乳がん月間の 10 月に、乳がんの早期発見・診断・治療の大切さを伝えるため開催されている「ピンクリボンフェスティバル」。リガーレではその趣旨に賛同し、メインイベントの「ピンクリボンスマイルウオーク東京大会」の給水ポイントの運営を行っています。

◆ **打ち水・盆踊り**

2013 年は大丸有エリア 4 ヲ所で打ち水イベントを展開したほか、7 月 26 日から 8 月 31 日まで仲通り、有楽町の路面店が参加する「打ち水 Weeks」を実施しました。7 月 26 日には 9 回目となった行幸通り打ち水イベントと連動し、盆踊りまつりを開催。丸ビル前の櫓を中心に終了時刻の 21 時すぎまで多くの人で賑わいました。



大丸有打ち水プロジェクト
場所 大手町、丸の内、有楽町各会場
参加者数 各会場計約 2,700 人
参加団体・社・店舗数 179
中水使用量 1,800 リットル
打ち水 Weeks 参加店舗・施設 96
<http://www.ecozzeria.jp/events/uchimizu/>

東京丸の内盆踊りまつり
場所 マルキューブ、丸ビル外構部、三菱商事ビル 1F、丸の内仲通り
集客数 約 11,500 人
キッチンカー 9 台
キッチンカーメニュー提供数 約 2,300 食

◆ **3×3 Labo（さんさんラボ）**

2014 年 1 月 17 日、丸の内・富士ビルに登録制オープンスペース 3×3 Labo が開設されました。大丸有エリアの強固なビジネスコミュニティがもつ経営資源を社会課題解決へと結びつける、CSV ビジネス創発支援の場として、8 ヲ月にわたりセミナーやワークショップなど、さまざまなプログラムを実践。

◆ **「3 Gear × 3rd Place Laboratory」**

3×3 Labo は「経済・社会・環境」がギアのごとく噛み合い、さらに会社でも自宅でもない第 3 の場所として業界業種の垣根を越えた交流・活動拠点として機能する場所を意味しています。

◆ **ソーシャルグッド会議**

企業、行政、NPO、個人といった立場を越え、社会課題を解決する活動を発表し、アイデアを共有する「ソーシャルグッド会議」は 6 回開催され、ディスカッションや交流は具体的なプロジェクトに生かされています。

◆ **セミナー内容をストリーミング中継**

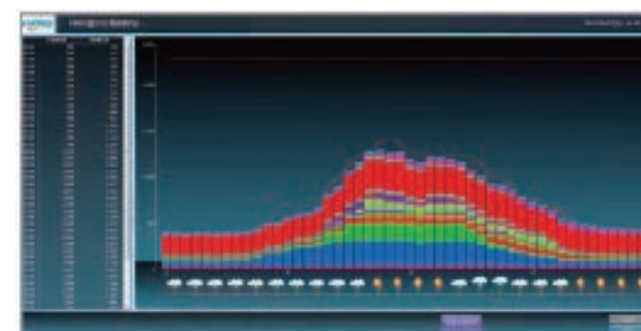
2014 年 7 月 5 日、政策分析ネットワークとヤフー（株）共催のセミナー「新成長戦略の評価と今後の課題」を開催。パネラーに竹中平蔵氏（慶応大学教授）、伊藤元重氏（東京大学教授・政策分析ネットワーク代表）、関口和一氏（日本経済新聞論説委員）の 3 氏を迎え、安倍内閣の新成長戦略の検討が行われました。セミナーには 200 名を超す来場者が詰めかけ、ヤフーではストリーミングによるライブ中継が行われました。

◆ **東京駅周辺防災隣組**

2004 年 1 月に設立された「東京駅周辺防災隣組」（会員企業 102 社）は、千代田区における地域協力会として、「事業継続地区計画」の提唱、「防災隣組全国会議の主催」「帰宅困難者支援対策訓練」など、まちの防災機能を高めるための活動や災害時における協力体制づくりに取り組んでいます。

◆ **デマンドレスポンス実証実験**

新丸ビルに入居している旭硝子、三菱 UFJ リースの協力を得て、2013 年度に東京都と協働してデマンドレスポンス実証事業を実施。ファシリティマネージャと就業者が円滑にコミュニケーションできる機能を提供した結果、快適性と省電力を両立できることがわかり、本機能がピークカットだけでなく、お客さまの省エネニーズを満たす仕組みとして活用できるという成果が得られました。

◆ **電力消費見える化モニター**

電力消費の見える化機能、高度な照明制御機能などにより、10%程度の省エネを達成。

エリアマネジメントを進める

リガーレセミナー / ママカフェ

オフタイムの交流を通じて、コミュニティ形成を図るリガーレセミナー。2013 年度は「丸の内フラワーアカデミー」「高野山 AJIKAN セミナー」「日本酒セミナー」「オーラルケアセミナー」など、さまざまなジャンルの 8 種類のセミナーを 18 回開催しました（参加者 266 人）。



ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン 「熱狂の日」音楽祭



東京国際フォーラムで毎年 5 月の連休期間中に開催されるクラシック音楽の祭典「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン 熱狂の日 音楽祭」。9 回目を迎えた 2013 年は「パリ、至福の時」をテーマに開催されました。かつては、オフィス街として休日には閑散としていた丸の内エリア。クラシック音楽という魅力的な文化を吹き込むことで、多彩なコミュニティが生まれています。

2013 年度実績
開催日時 2013 年 5 月 3 日～5 日
来場者数 51 万人
<http://www.lfj.jp/lfj>



参加型のイベント「みんなでボレロ」
初めての試みとしてフラッシュモブによる観客参加型のイベント「みんなでボレロ」を実施、好評を博しました。

丸の内シャトル

丸の内シャトルは日本橋の「メトロリンク日本橋」と並んで、全国でも珍しい無料巡回バス。地元企業の協賛金により完全無料で利用できます。大丸有エリア内の一周約 35 ～ 40 分のルートで 10 時から 20 時までの間 12 ～ 15 分間隔で運行しています。



アプリ登場
2013 年 9 月には、バスの位置がひと目でわかるスマートフォン用のアプリをリリース。Android、iPhone いずれの端末でも利用することができます。

2013 年度実績
1 年間の利用者数 約 63 万人
1 日の平均利用者数 約 2,000 人

お問い合わせ
03-3955-1188
日の丸自動車興業（株）板橋営業所
<http://www.hinomaru.co.jp/metrolink/marunouchi/index.html>

イノベーションを生み出し波及させる

EGG JAPAN（日本創生ビレッジ）



日本を代表するビジネスセンターである丸の内が日本未進出の海外成長企業や世界展開を目指す日本の中小ベンチャーを対象に事業開発支援や誘致を行う拠点として 2007 年に新丸の内ビルに開設されました。

「東京 21c クラブ」ネットワーキングパーティー
年 2 回、クラブメンバーや入居企業等を対象に開催。毎回 200 名ほどが参加し、大きなビジネス交流の場になっています。

2014 年 1 月現在実績
入居企業数 37 社
区画数 43 区画（新丸ビル 10 階・9 階、日本ビル合計）
2013 年度までの支援企業上場実績 5 社
お問い合わせ
EGG JAPAN（日本創生ビレッジ）
03-3287-7310
<http://www.egg-japan.com/>

マルシェ



毎週第 2・第 4 金曜日に青空市場主催で定期開催される行幸マルシェ。東京駅と周辺の駅の利用客が気軽に立ち寄ることができ、毎回約 5,000 人が訪れています。各地の郷土野菜などを身近に購入できるマルシェは都市と地方を結ぶ交差点になっています。

2013 年度実績
【行幸マルシェ】
実施回数 23 回／動員数 111,044 人
【丸の内マルシェ】
実施回数 2 回／動員数 9,804 人
お問い合わせ
青空市場 03-5755-0480
受付時間平日 10：00 ～ 17：00
http://aozora-ichiba.co.jp/marche/marche_top

丸の内朝大学

2013 年に 5 周年を迎えた丸の内朝大学。「学びのコミュニティ」の場は丸の内から外に大きく広がりつつあります。とくに、地域プロデューサークラスを中心に各地域との連携は高く評価され、全国の自治体からコラボレーションのオファーが届いています。

東北復興・復興トレーニングセンター
プロジェクト（協賛：麒麟株式会社）
単なる座学ではなく、東北の復興を担う「新しい農業ビジネス」を創出するアイデアを考え、それをプロジェクトとして実践。さらに、東京クラスとともに「農業経営リーダーズネットワーク in 東北」を開講。両者が連携しながら「東京と東北を一枚岩にする」ための環境を整えています。



日本を地域からデザインする！
能登編
全国初の搭乗率保証制度を導入している能登空港の搭乗率を向上させるため、能登の魅力为首都圏に発信するアイデアを考えました。



ソーシャルプロジェクト
受講生たちが自主的に社会に「いいこと」「楽しいこと」を発信するソーシャルプロジェクト。写真はトライアスロン大会を応援するチャリディングクラスの Morning★Diamonds。